地域での活動/広報活動

教育現場や地域への参加等「地に足のついた活動」を通して、身近なところからより良い杉並区の実現を 目指しています。あわせて「より良い区政に向けて、今後どうすればよいか」を考える一助としています。

小学校でのゲストティーチャー

- 運動会に向けた 「よさこいソーラン 節(踊り)」の指導 (平成16年~)
- 6年生向け社会 科及びキャリア教 育授業(平成27 年~)





知的障害児・者への スポーツ指導



● スペシャルオリンピッ クス・バレーボール・ プログラムへの参加 (平成18年~。平成 19年から主任コー チ。)

防災 · 防犯等

- 所属町会にて防災部長
- 震災救援所運営連絡会副会長
- 保護司
- 自転車放置防止協力員
- 防犯自主団体の一員として活動

参考:主な保有資格等

議員活動や地域での活動を効果的に行うた め、下記等の資格を取得・保有しています。

- 行政書士
- ファイナンシャル・プランナー2級
- メンタルヘルスマネジメント (セルフケア/ラインケア)
- 応急手当普及員
- ダーツC級指導員 等

子供達への教育活動/居場所づくり

- 小学校放課後子ども教室の新規立ち上げ及び運営。 あわせて、実施プログラムとしてバレーボール及び プログラミング教室の開催・指導(平成29年~)
- 地域の子供達に「よさこいソーラン節(踊り)」の指導 (平成15年~25年)

PTA等の活動

- 小学校・学校に泊まろう会(平成22年~。平成23年 ~27年は実行委員長。)
- 小学校での読み聞かせ(平成21年~)
- 幼稚園チーム・パパ(親父の会)(平成18年~26年)
- 高校バレ一部OB・OG会役員(平成24年~)



←「学校に泊まろ う会」での活動(空 き缶での炊飯)

● 地域のお祭りに幼稚園チーム・パパOBメンバーと 出店(平成26年~)

地域イベント等

- 日本障がい者ダーツ選手権、シニア交流ダーツ大 会等にスタッフ参加(平成28年~)
- インターン生(大学生4名・社会人1名)の受入れ

皆様への広報活動

今期も、下記を通じて皆様に区政の状況をご報告させ ていただきました。

- ◆ 議会開催毎に区政報告書発行 (年4回。要約版は年2回。)
- ◆「区政に関する意見交換会」を開催(年4回)
- ◆ホームページで毎日情報発信
- ◆メールマガジンを毎月発行 (平成31年2月段階で166号)

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX:03-3247-8660 もしくは E-Mail:ikuma@gakushikai.jp



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告 第62号(平成31年春号)

発行:岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103 TEL/FAX; 03-3247-8660 E-Mail; ikuma@gakushikai.jp HP; http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴:昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。 外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。 平成27年5月より4期目。

趣味:バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。 家族:妻、長男(16歳)、長女(13歳)、次男(11歳)。

特集: 今期(4年間)の活動を振り返る(P.1~2)

P.1 予算/決算への賛否

P.3 岩田いくまの基本姿勢と新たな提案

P.2 議会での活動(行政のチェックや政策提言等)

P.4 地域での活動/広報活動

「是々非々」での議会活動

~ 今期(4年間)の活動を振り返る ~

杉並区一般会計の「当初予算」及び「決算」に対する審査には、区政の全体像に対する判断が求められ ます。この審査は任期中(平成31年2月現在)に7回ありました。

く岩田いくまの替否>

審査対象		賛否	主な理由			
当	平成28年度	賛成	財政面、行財政改革面及び各施策等における取組を、妥当なものと判断したため			
初 予	平成29年度	反対	新たな50億円以上の借金と、70億円以上の貯金の取崩しによる財政悪化 を懸念したため			
算	平成30年度	反対	財政健全化への取組みが不十分であり、かつ、区長の任期が残り100日しかないことへの配慮が欠如していたため			
	平成26年度	賛成	施策目標の達成状況は十分満足できるものではなかったが、決算数値等か			
決	平成27年度	賛成	ら、財政運営は適切に行われたと判断したため			
算	平成28年度	反対	区自らが定めた財政のルールを守れず、赤字区政に転落し、かつ、先見性の欠如と非民主的意思決定プロセスが目立ったため			
	平成29年度	反対	施策目標の達成状況が大幅に悪化し、かつ、区自らが定めた財政のルール を守れなかったことを含め、財政指標もさらに悪化したため			



議会全体でみると、現任期(平成27年5月~)を通して 在籍する議員45名(*1)中、「毎回賛成の議員:31名」、 「毎回反対の議員:7名」、「是々非々の議員:(私を含め て)7名」となります。

議員の仕事は単なる「追認」や「批判」ではありません。今後も区民の 皆様のご意見をお聞きしながら、より良い杉並区を目指して「是々 非々」で区政に取組んでいきたいと思っております(P. 2も参照ください) (*1)任期当初48名中、1名がご逝去、2名が他の選挙に出馬。





議会での活動(①議案への賛否 ②行政のチェック ③政策提言 ④議会改革)

議員の議会での主な仕事は、①議案(予算、条例、契約等)への賛否②行政運営のチェック③政策提言④議会 改革 になります。それぞれについて、今期の特徴的な活動をご報告します。

* 今期(平成27年5月~)の岩田いくまの活動は、HPでご確認いただけます。また、ご連絡いただければ、これまでの区政報告 書をお届けいたします。

議案への賛否

議員(議会)には、区長や行政に対して「適切な歯止め役」になることが求められます。

岩田いくまは、P. 1の他、下記の議案に反対しました。

議案		理由	
平成28年度一般会計補正予算(第2号)		住民への説明会なしに強引に公園等の保育施設への転用を決めたため	
平成28年度一般会計補正予算(第5号)	1	地元の理解を得られぬまま公園等の保育施設転用工事を進めたため	
議員の派遣(韓国瑞草区)		理不尽な海外派遣のため	
平成29年度中小企業勤労者福祉事業会計決算		区自ら「条例違反に対し、適正に処理しなかったこと」を認めているため	

行政運営のチェック

議員には、日常の行政運営のチェックや、決定した施策が正しかったかを検証することも求められます。

保育ニーズの高まりに伴い、保育施設を新たに整備することは必要です。しかし、平成28年度に行われた公

園等の保育施設への強引な転用については、保育に関する地 域別需給データをもとに、「保育施設が足りない地域ではなく、 単に(立地条件等から)つくりやすいところに作る計画になってい る」旨、当初から指摘してきました。

その後の検証で、次年度(平成29年度)は待機児童はゼロにな らず、かつ、転用された公園の近隣保育施設では、大きく定員割 れとなったことが判明しました(右図参照)。

データを正しく活用せず区全体での保育定員にこだわりすぎ、地 定員・空枠とも1歳児。空枠は平成29年5月1日入所分。 域バランスを欠いた拙速で不適切な施策であったといえます。

	転用された公園	近隣保育施設	定員	空枠
	九华山市历八国	保育室高井戸北	10名	6名
	久我山東原公園	定期利用保育久我山東	15名	13名
	高井戸みどり公園	保育室高井戸西	12名	7名
	力 #八国	保育室下井草北	15名	5名
	向井公園	定期利用保育下井草	18名	14名

政策提言

議員には、地に足のついた日常の地域活動での気付きや、 専門性を活かし、区政に提言することも求められます。

日常の地域活動(P. 4も参照ください)での気付きや区民の皆



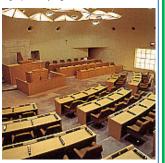
様からのご相談をもとに、学校施 設の有効活用や世代を超えたつ ながりを生む居場所づくり、防災施 **策**等を提言しました。

また、かつて外資系コンサルティン グ会社に勤務していた専門性を活 かし、区役所の生産性及び区民 サービスの向上策として、新たな 情報技術(人工知能(AI)や、ロボティッ ク・プロセス・オートメーション(RPA)と呼 ばれるホワイトカラー業務の自動化・効 率化の取組) の行政への導入等に ついて提言しました。

議会改革

議員には、自らが所属する「議会」をあるべき 姿に近づけていく責務があります。

昨年の12月議会にお いて、「議員定数を2人 削減(48人→46人)す る条例」を、有志議員と ともに、議員提出議案 として提案しました。 情報技術の発展に伴



い、情報収集・情報伝達手段が格段に多様化・ 効率化した現在においては、より少ない議員数 で多くの区民意見を把握することが可能となっ ています。それにも関わらず、この16年間、議 員定数は変わっておりません。

しかし、残念ながら賛成議員は私達提案者を含 めて7人にとどまり、否決されました。

基本姿勢

- ▶「未来への責任」を自覚し、長期展望をもって判断する
- ▶「丁寧な政治」「納得の政治」を心がける
- ▶ 公助に偏ることなく、自助・共助を支援する区政を目指す。
- ▶ 地に足のついた活動を大切にする
- ▶ 権力におもねることなく、自ら考え、判断する



教育こそ政治の根本

未来をつくるのは、今の、そしてこれか らの子供達です。

親世代として、地域ぐるみで教育を担う 仕組みづくりに、引き続き率先して取組 みます。

- ▶ 地域による学校支援のさらなる 拡充
- ▶「学びに向かう力」を育てる教育 の推進
- > 家庭での育児を含めた多様な 子育て支援

次世代に負担を 先送りしない

私達の責任は、「良い世の中」を子供達 に引き継ぐことであり、決して「多大な借 金」を引き継いではなりません。

次世代への責任、未来への責任として、 健全財政を堅持することは最低限の責 務です。

- ▶財政収支の黒字化 堅持
- > 新たな情報技術の有 効活用による、行財 政改革の推進
- > 区立施設の複合化・ 多機能化

新岩 H

たい



提

安全・安心・生きがい まちづくり

平穏な日常こそ、かけがえのない 日々の暮らしです。

また、人は「必要にされる」ことで生き がいを得られます。

地域に根差した視点で居場所づくり を推進し、住み続けたい、そして災害 にも強いまちづくりを進めていきます。

- ▶ 世代を超えた"つながり"が生 まれる居場所づくり(学校等 区立施設の有効活用)
- > 長寿時代の介護者・要介護 者支援
 - 家族介護の支援充実
 - 多職種連携による、医療・ 介護・予防・生活支援の一 体的な提供
- 区内及び交流自治体での、 特別養護老人ホーム等の 整備
- インフラ(道路・橋梁等)の適 切な維持管理と、地震・豪雨 対策の推進
- ▶ 避難所運営等ソフト面での自 助・共助の支援充実



